

プロスポーツクラブとの連携によるホームゲーム企画運営プロジェクト

団体名●地域スポーツマネジメント研究室／代表者名●西村貴之(人間科学部准教授)

はじめに

1993年に日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)の開幕以降、プロスポーツクラブのマネジメントにおいて「地域密着型クラブ運営」、「地域に根差したプロスポーツクラブ」といったコンセプトが注目されるようになった。近年ではJリーグに限らず、他の競技においても、地域内の企業、行政、大学(学校)など様々な団体との連携や協働による取組みが実践されている。その一方で、プロスポーツクラブ界の課題として、マネジメント人材の不足がある。スポーツ庁の「スポーツ経営人材プラットフォーム協議会」では、スポーツ団体におけるマネジメント人材が不足している要因の一つとして、アカデミックな育成機関においてスポーツ界の現場の実態にふれるような内容の講座や講義が十分になく、即戦力としてスポーツ界で活躍できる人材の育成ができていないことが指摘されている。筆者が担当する地域スポーツマネジメント研究室は、“スポーツで人と地域を幸せにする”を理念に掲げ、行政、NPO法人、地域スポーツクラブ、プロスポーツクラブ、企業、まちづくり団体などとの連携プロジェクトを実施し、にぎわい創出、課題解決といった地域活性化の担い手となる、「地域スポーツマネジメント人材」の育成をめざしている。

ここでは石川県内のプロスポーツクラブと本研究室とが連携して行った3つのプロジェクトを紹介していきたい。

活動内容

2019年度はプロスポーツクラブとの連携・協働プロジェクトとして、ツエーゲン金沢(サッカー、J2リーグ所属)、金沢武士団(バスケットボール、B3リーグ所属)、ヴィンセドール白山(フットサル、F2リーグ所属)の3クラブと実施した。具体的な内容を以下に示す。

(1) ツエーゲン金沢との連携プロジェクト

日時：2019年5月19日(日)

VS V.ファーレン長崎戦

場所：石川県西部緑地公園陸上競技場

参加：フィールド基礎演習「トップスポーツマネジメントフィールド基礎演習(前期)」を受講するスポーツ学科2年生 15名

内容：ツエーゲン金沢の新たなファン層の獲得をめざして開催された、模型トップブランドTAMIYAとのコラボによる、ホームゲームと同時開催のミニ四駆イベントの企画・運営を実施した。学生達はツエーゲン金沢オリジナルミニ四駆の販売・組立のサポートを行う「組立班」とレース大会(ツエーゲンカップ)を運営する「レース班」に分かれて活動を行った。



組立班の様子



レース班の様子

(2) 金沢武士団(サムライズ)との連携プロジェクト

日時：2019年12月21日(土)、22日(日)

VS 東京サンレーヴス戦

場所：いしかわ総合スポーツセンター

参加：地域スポーツマネジメント研究室に所属するスポーツ学科3、4年生 18名

フィールド基礎演習「トップスポーツマネジメントフィールド基礎演習(後期)」を受講するスポーツ学科2年生 17名

内容：通常のホームゲーム時には実施していない企画を学生が企画・運営し、初めて試合を見に来た人をライトユーザーに、ライトユーザーをヘビーユーザーへとファンを育成することを目的とした。実際に行われた企画内容は以下のとおり。

【試合会場外企画】

・選手登場のチャレンジ動画の企画、撮影とクラブ公式SNSアカウントでの配信

【試合当日企画】

- ・キリ番チャレンジ(得点者予想)
- ・ライゾウラリー(会場内スタンプラリー)
- ・エキシビジョンマッチのプロデュース
(南越オールスターズ v s 清泉中学校)
- ・金沢星稜大学ダンスサークルによるハーフトウムショーのプロデュース



キリ番チャレンジ



ライゾウラリー



オリジナルボトル



販売ブース



MVP 予想



縁日ブース

(3) ヴィンセドール白山との連携プロジェクト

日時：2019/8/4～2020/1/12のホームゲーム
全6試合

会場：松任総合運動公園体育館、ほか

参加：地域スポーツマネジメント研究室に所属する
スポーツ学科3、4年生 18名

フィールド基礎演習「トップスポーツマネジメント
フィールド基礎演習(後期)」を受講する
スポーツ学科2年生 17名

内容：ヴィンセドール白山の活性化(露出、認知度
向上、集客、ホームゲーム企画新設、社会・
地域貢献)とスポーツビジネスで「稼ぐ」人
材育成(学生チャレンジ)の2つを目的とし、
クラブ所属選手のオリジナルラッピングを
施したペットボトルドリンクを開発すると
ともに、それを活用した企画、イベントを展
開した。

- ・ヴィン選手ボトル推しメンランキング
(売上ランキングによる人気投票)
- ・MVP 選手予想イベント(ホームゲーム会場にて)
- ・ホームゲームでの販売ブース、縁日ブース開設
- ・学生企画への協賛金獲得にむけた企業営業訪問

成果、結果の考察

来場者アンケートの結果やクラブ関係者への聞き取りでは、いずれのプロジェクトにおいても学生達の取り組みはホームゲームのにぎわい創出や来場者満足度の向上に貢献しているという評価を得ることができた。また、特にクラブ関係者からは「やりたいと思ってもマンパワー不足等により着手できなかったことが実現できた」という声もあり、このような取り組みへの需要の高さを示している。また、プロジェクトに参加した学生達にとって、自分達が考案した企画をクラブ関係者と協議しながら形にし、それを実践するという一連のプロセスを経験することは深い学びの機会になっていた。ただのボランティアや運営補助ではなく、自ら考え実践し外部からの評価やフィードバックを得ることが重要である。これらのプロジェクトが一つの契機となり、インターシップなどをへて、プロスポーツクラブのフロント職員として採用される学生も出てきた。

今後の課題、展望

プロスポーツクラブ、大学の双方が求める点について対話をつづけ、より良いプロジェクトにむけた設計改善と継続実施に取り組んでいきたい。